

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100179		
法人名	有限会社 タムラ		
事業所名	グループホーム はこべ A棟		
所在地	福島県田村市常葉町常葉字七日市場99番地		
自己評価作成日	平成24年 7月25日	評価結果市町村受理日	平成24年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=07
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2011年3月11日、穏やかで自然豊かな当事業所は一変してしまいました。福島原発より34km、被災した家族も多く、利用者と共に避難も検討しましたが、リスクの多さに断念、残ってくれたスタッフと、ここで続ける選択をしました。当初は全国、また地域より安否確認、ボランティア、支援物資等を頂き、心強かったです。この場をお借りして、全国、地域の皆様に感謝申し上げます。目に見えない放射線との戦いで、利用者、スタッフが精神的ストレスを感じないで行けるよう、寄り添った介護を、また、少子高齢社会が急速に加速して行く中、グループホームが地域の中で担う役割を考え、介護を続けていきます。静かに静かに、少しずつ、はこべの花のように！！

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 事業所は運営推進会議の意義を十分活かした取り組みを行なっている。協力医療機関の医師や消防署の署員等、委員は多彩であり様々な提言がなされており、地域の事業所として共生に努めている。
2. 法人は敷地内にショートステイを併設し、さらにその敷地内に管理者が居住しており、協力及び管理体制が確立している。
3. 事業所では職員の資質向上に努めており、様々な研修に職員を派遣し、資格取得に対しても支援をしている。
4. 事業所職員が田村地方自衛消防の操法競技会に交代で参加し、事業所の防災対策に活用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常ケアの実践が理念に合ったものか、常に話し合いを持っている。全職員が理念を共有し入居者様、その家族を支援し、また地域の方々と関わられるよう努めている。	理念には利用者に寄り添い共に歩むことを基本に地域密着型サービス事業所としての精神が明記されている。理念は玄関や共有スペースに掲示され、朝の引き継ぎ時及び月例会全体会で確認され全職員が共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	はこべ祭や避難訓練には、隣近所にお知らせを配布して挨拶回りを行っている。幼稚園から招待を受け、子供達と運動会やお遊戯会などで交流を持つ事が出来た。	地域の行事(地域のお祭り・そば祭り・三日月市・文化祭、運動会等)には積極的に参加して交流している。幼稚園との交流、ボランティアの受入、小学生との昔遊び、中学生の職場体験なども受け入れている。地域の高齢者行方不明の際には捜索要員として職員も参加するなど地元との連携も深い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実際に認知症の方の家族から相談を受けることが多い。認知症の理解や症状への対応の工夫など伝え、家族の負担などについても話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	二カ月に一度、運営推進会議を開催している。多方面の方々の協力が得られ参加頂き、有意義な意見交換が出来ている。	地域の各分野から多彩な委員が選任されている。協力医療機関の医師は毎回参加しており、利用者の健康管理の面からも重要役割を果たしている。また、消防関係の委員等からは専門的な立場からの提言もあり、運営推進会議の意義を十分活かした会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の保健福祉部、介護福祉課の担当者とは、常に連絡を取り合い相談を行っている。地域包括支援センター職員を運営推進委員に委嘱しており、会議に参加して頂いている。	運営推進会議には協議事項の内容に応じて市職員が出席し、介護保険法の改正や生活保護該当者関連事務や避難訓練等について市の立場から発言があり、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は、施錠せず見守りを行っている。玄関はいつでも、自由に出入り出来るようになっている。身体拘束が及ぼす弊害を理解し、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束をしないマニュアルを基本に全職員が研修を重ね、「身体拘束をしないケア」を実践している。夜間以外は玄関の施錠はせず見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学び、意識してケアを行っている。知らず知らず、職員の言葉で嫌な思いを抱かせることが無いよう精神的虐待についても注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本人の意思決定の支援、苦情の捉え方等、常に話し合っている。金銭管理については、本人、家族と相談し、必要があれば制度の理解と活用についても話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項を説明し理解を得ている。家族の疑問を見逃さないよう、話し合いを行っている。料金改定の際は、その都度説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表にも出席して頂き、意見交換を行っている。また、家族の面会時には意見、要望を伺うようにしている。意見、苦情ポストを玄関に設置している。	家族の面会時や月に一度の利用料支払い時及び利用者の状態報告等様々な機会を捉えて家族の意向の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回全体会があり、代表者、管理者も出席している。運営に関する意見や要望などを話し合う場を持っている。	管理者と全職員の関係が良好であり、日々の生活の中で職員は意見や提言を気軽に言える体制となっている。運営に関する意見や提言に対しても経営者が出席する月例会議で検討され、事業所運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面接を行い、個々の努力や実績を反映し、現場からの不満の声に対しても、常に話し合って改善している。資格取得や研修参加の支援を行ったり、子供や家庭の都合にも配慮し、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レクリエーション研修、認知症共感的理解の研修、実践者研修等、職員の力量に合った研修に参加している。内部研修は、毎月一回行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会に加入している。交流のあるデイサービスと相互訪問を実施した。レクリエーションについて、職員のサービス向上のきっかけとなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限りの情報を得、本人ともじっくりと対話する事で、些細な不安も見逃さないよう努めている。不安解消と共に信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前から家族に聞き取り調査を行い、何度も連絡を取り合い信頼関係を築いている。家族の不安や要望には、小さな事でも話し合い、安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回のカンファレンスに、家族が必ず参加され、話し合いを行っている。必要に応じて、他のサービス利用の検討も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、掃除など手伝って下さる利用者がいる。それぞれが出来る事を職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会、外出、外泊の機会を出来るだけ多く持って頂けるよう支援している。本人の家族への思いを伝えると同時に、家庭、家族の状況も把握できるよう努めている。出来るだけ面会に来て頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に馴染みの場所に連れて行って頂いたり、職員と一緒に出掛けたりして関係が途切れないように支援している。	馴染み美容院やお店の利用には家族の同行を基本としているが、場合によっては職員が同行して関係の継続を支援している。また、入所が長い利用者にとっては訪問理容所やボランティアの方とは新しい馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話しやすいように、職員が間に入ったり、一人ひとりが孤立しないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去による契約終了はなかったが、ホームで亡くなられ契約終了された方がいる。亡くなられた後も、何度かご家族が来所されている。必要があれば相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎回必ず本人、家族の意向を伺って、モニタリング、アセスメントを実施し反映している。生活の中から本人の思いなど見逃すことのないよう、職員は常に意識している。困難な場合にも表情の変化、仕草などから気づき本人本位になるよう検討している。	日常の行動や些細な発言からも利用者の意向の汲み取りに努めている。また七夕の短冊を利用したりして利用者の意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者、家族から生活歴などを聞き取りしている。会話の中から聞き取るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録、チェック表などで状態を把握している。小さな変化を見逃す事無く、日々の様子を観察しケアプランに反映している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が安心してより良く暮らすため、定期的にモニタリング、アセスメントを行い、本人家族の意向を十分に把握し活かしている。変化があれば随時カンファレンスを行い見直している。職員全体での共有に努めている。	利用者に対して担当制をいっており、利用者、家族等の意見を踏まえ、担当者を中心に関係者が話し合い、利用者の現状に即した介護計画を作成している。また、個別記録等をもとにケース検討会議を行い、定期的に介護計画の見直しをしている。利用者の状態の変化があった場合には随時計画の変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、個人ノート、実践チェック表、日々の介護記録を職員間の情報共有に活かし、ケアプランに基づき記録により介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	原発事故後には緊急避難に備え、水戸市に避難先を確保し、個々の家族と対応について話し合った。事業所独自で環境放射能測定を行っている。遠方の家族には面会時の宿泊についても対応したり、看取り期の入居者様の家族の付添い、宿泊も対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と一緒に野菜などの手入れを行って頂いている。また、行きつけの美容院や、商店の方にも認知症を理解して頂いており、協力を得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を取りながら、受診、訪問診療などが適切に行われている。また、状態の変化があった際や緊急時などは、ドクター指示がスムーズに行われている。	現在は利用者全員、協力医療機関がかかりつけ医となっており、月2回の訪問診療がある。専門医受診にはかかりつけ医の紹介状を得て受診しており、利用者の状態を踏まえた診察を受けられる体制となっている。受診には家族同伴を原則としているが場合によっては職員の同行もある。診察結果はかかりつけ医を経由して家族に伝えられ情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態や不安な事を相談し、助言や指示を頂いている。異常の早期発見に努めている。普段の様子などの情報交換も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に備え、医療機関との情報交換、相談などの連携は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、かかりつけ医と常に連携し、話し合っている。3か月ごとに方針について同意書を得て、対応の共有を図っている。	「重度化・看取りに関する指針」を策定し、入所時に家族に説明し同意書を得ているが、さらに3か月ごとに家族の意思の確認を行い緊急時に的確に対応できるようにしている。全職員が情報を共有してターミナルケアの実践をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを個人別に作成し全員が同じ対応を出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携し、避難訓練を実施している。地域の協力が得られるよう運営推進会議などで話し合っている。避難訓練の際には地域の方々にも多数参加して頂いた。	消防署立会いのもと近隣住民の参加を得て、年2回の総合訓練は実施している。通報訓練・召集訓練等随時独自の訓練をしている。災害時の非常食や防空頭巾等を備えている。	あらゆる災害の多様な状況を想定して、全職員が災害時に利用者をも的確に避難誘導ができるように日ごころからの訓練が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように、丁寧な言葉で声掛けしながら対応をするよう心掛けている。職員間で気付いた時には注意し合っている。	「言葉での拘束」等には全職員が注意しあってケアにあたっている。また、マニュアルを基に全職員で研修を行い、日々のケアの中で利用者の尊厳を損ねない対応の実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き食事の対応を行ったり、散歩なども行っている。訴えの少ない方には、特に注意して観察を行い、本人の思いを把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制することなく本人のペースで過ごせるように声掛けし対応している。本人の希望にそった支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は、自分で選んだ服に着替えている。行事や外出の際も、その方に合ったおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	週一の調理実習を行い一緒に作業し、楽しい食事になるようにしている。普段も昼食は一緒に食卓を囲み、楽しい雰囲気ですぐに食事が出来るように支援している。	敷地内で収穫した野菜や近所からの差し入れ等を利用して、季節感のある食事を楽しんでいる。調理の補助や片付け、食材の買出し等も利用者と職員は一緒に行っている。また、季節ごとの外食もあり利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量を把握し、なかなか水分摂取されない利用者には飲み物を工夫したり、栄養も考慮し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがいや歯磨きを声掛けし、実施出来ている。自分で出来ない利用者には介助行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。失禁を少なくする為、早めに声掛けを行っている。	利用者の「排泄パターン表」を活用し、しぐさや時刻から排泄の支援をしている。トイレでの排泄が可能になりオムツ利用が削減された利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、食品、水分、運動等で便秘の予防と対策を図っている。チェック票により個別に便秘の対応を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否がある場合は、時間をずらし再度声掛けし入浴して頂いている。時間帯も好きな時間や、入浴したいと思ったらいつでも入浴出来るように支援している。	利用者の希望により入浴支援をしている。季節風呂として、ゆず・ハーブ・みかん・菖蒲湯などを楽しんでいる。入浴拒否者には、担当者や誘導時刻を変えるなど気分転換を図り、週2回以上の入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳のスペースや、居室で独り過ごされたりしている。個々のペースに合わせ見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明書は、ファイルに綴じ、一人ひとりの状況を把握している。使用してはいけない薬を個々に把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ出来る事を活かし、週一回カラオケや調理実習を行い、楽しみのある生活が出来るように支援している。気分転換にドライブなどに出かけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や外気浴などは、毎日声掛けしている。車椅子の方でも、スーパーや美容院へ外出している。また、皆で、お花見や季節ごとの外出も行い、楽しまれている。	年間行事として、花見・紅葉狩り・ドライブなどを企画し実践している。また、地元の文化祭・神社祭り・運動会・自衛消防団競技会応援などに数多く参加し、外出支援をしている。季節によって近隣の散歩は日課となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は、家族と話し合い、その方に合った金額を所持されている。買い物への付添いや支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えるようになっている。家族から気兼ねなく電話を掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けを変えたり、毎月の行事を見やすい所に掲示している。大きな窓からは、遠くの間山々、田んぼの景色、農作業の様子などが眺められ、季節や天候の変化を感じられるようになっている。玄関、テーブルなどには季節の花や植物が飾られている。	共用空間は大きな窓や灯り取りがあり、利用者の作品やお花が飾られ温かい雰囲気のある空間となっている。大型テレビのあるソファコーナーや畳コーナーもあり利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。畳コーナーは掃きだし窓となっており非常時にも有効である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先に椅子を置き日向ぼっこをしたり、好きな時間に気の合った利用者とお話し出来るように支援している。独りになりたい時は居室に戻って独りの時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	馴染みの物を持ち込んだり、思い出の品々を置いたりされ、寛げるようにしている。本人に合わせ、畳部屋にされている方もいる。	居室は空調管理が徹底され職員のチェック表が各部屋に備えられている。ベットやマットなど利用者の状況に応じて対応している。クローゼットが備えられており、利用者は使い慣れた家具・仏壇・テレビなどを持ち込み自宅の雰囲気そのままの安心した生活をおくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場には、わかりやすい目印を付けている。時計やカレンダーも見やすい物を使用している。台所や洗面台は、入居者に使いやすいように配慮してある。車椅子でも使用可能な広さのトイレがある。		